



特定非営利活動法人 ふくおか環境カウンセラー協会 会報

第15号 2017.3.31

九州で初めて

第7回環境カウンセラー全国交流会

環境モデル都市北九州市で開催!

北海道からの参加も含め全国の環境カウンセラーが集合!

基調講演には100名を超える参加者!

2016年11月19日(土)、20日(日)の両日、ふくおか環境カウンセラー協会と環境カウンセラー全国連合会の主催で第7回環境カウンセラー全国交流会を北九州市で開催しました。

九州地域では初めての開催です。

一日目の19日(土)は、環境カウンセラーでもある垣迫裕俊北九州市教育長から「北九州市の小中学校における環境教育と環境カウンセラーへの期待」という基調講演をいただきましたので、北九州市内で活動されている一般の方々にも広くお声かけし、参加者100名を超す大盛況となりました。



環境モデル都市北九州市の環境政策と環境教育について語る北九州市教育長 垣迫裕俊氏



近代化産業遺産の「東田第一高炉」を見学する参加者

垣迫教育長は小中学校の環境教育のみならず、北九州市の公害克服の裏話や、「環境モデル都市」である現在の市民や企業・行政が一体となった取り組み、環境ガバナンスの苦労話などを面白く語って下さいました。

その後、九州環境カウンセラー協会および当協会の事例報告、全国の環境カウンセラーの活動事例報告と続きました。

当協会の事例報告では、東筑紫学園高校の理科部の皆さんが飛び入りし、北九州市平尾台・広谷湿原のラムサール条約登録運動へのご協力を訴えました。

夕刻からの懇親会では当協会の矢野郁子氏の草笛演奏もあり、にぎやかな意見交換・交流が繰り広げられました。

二日目の20日(日)は、八幡東田地区での見学会でした。

現在、取り組んでいる北九州市の水素社会の創造や北九州市環境ミュージアム等の見学等を行いました。

北九州市は、今年度G7北九州エネルギー大臣会合もあっただけに、負の遺産を正の新しい取り組みに転じた環境未来都市の姿を、歴史の流れと共に学べる大変興味深いものでした。

二日間の全国交流会の詳しい様子は、当協会のホームページに掲載しています。

<http://fukkan.sa-ba.jp/> (ふくおか環境カウンセラー協会) をご参照下さい。

報告者 森本 美鈴

活動報告

平成 28 年度福岡県環境県民会議への参加

福岡県環境県民会議において、当協会の依田浩敏理事長が委員を、森本副理事長がその中の「福岡県食品ロス削減推進協議会」の委員を、近藤哲司理事が下部組織の「ふくおか生きもの調査分科会」の分科会長の委嘱を受けています。

以下にその報告をいたします。

その1 「福岡県食品ロス削減推進協議会」

あらゆる分野から県民が参加、多岐にわたる取組み！「もったいない」を次世代に！

食品ロスとは、製造・流通・小売り・消費の各段階で、まだ食べられるのに廃棄する食品のことです。それぞれ、「製造」では印字ミスなどの企画外品等、「流通・小売り」では破損、売れ残り等、「消費」では飲食店や家庭における仕込み過ぎ・買い過ぎ、食べ残し等が該当します。

日本全体では年間約 632 万トンにも上り、これを日本人 1 人当たりで換算すると、毎日お茶碗約 1 杯分（約 136g）のご飯の量を捨てていることとなります。何と、私たちは多くの食べ物を輸入しながら、大量に捨てているのです。

この協議会では、生産・製造者、流通・小売り者、飲食店、市民団体、行政等あらゆる分野の代表が一堂に会し、これまでに 3 回の会議（6 月、9 月、2 月）を行って、福岡県で取り組む事業について具体化のための意見交換をしました。

福岡県では同協議会委員の意見を反映した平成 29 年度の事業計画を以下の 4 つに分けてたてています。

- 1 食品ロス削減研修会（実施と人材育成）
- 2 啓発資材の作成・活用（幼稚園・保育所等に通う年長児対象）
- 3 食品の安全な持ち帰りに関する取組（飲食店からの持ち帰りの推進）
- 4 アイデアコンテスト（ポスター部門、レシピ部門—レシピの普及）



また、協議会には、「製造」段階等での食品メーカーから福祉施設やこども食堂等への無償提供を推進する「フードバンク分科会」も設置されています。第 3 回会議では、子ども食堂の支援に特化した「ふくおか筑紫フードバンク」や「フードバンク北九州ライフアゲイン」等の事例発表がありました。

食べ残していませんか？！ 推進しよう「30・10運動」！

30・10 運動とは、外食産業での食品ロス削減のための取組として、宴会等では初めの 30 分と終わりの 10 分では自分の席で料理を楽しもうというものです。長野県松本市が提唱し、今では福岡県、北九州市等でもステッカーやカード等で大きく推進しています。皆さんも、ぜひご実行ください。

【感想】 若者への教育を！

多種多様なステークホルダーが参加する会議で、当環境カウンセラー協会の役割は、もっぱら、「消費」段階の飲食店や家庭での食品ロス削減に意見具申することです。

私は主に若者の教育について意見を出しました。

特に若者の「賞味期限」と「消費期限」の混同に、早い段階での教育の必要性を感じました。若者が表示を見るのはいいけれど、賞味期限を過ぎたら、即、捨てなければいけないと誤解していることが多く、シニアとしては大きな違和感を覚えます。

たまたま朝日新聞の「オピニオン・フォーラム」欄で平成28年8月から9月にかけて5回の「食べ物を捨てる」という特集があり、私も以下の意見を寄せ、掲載されました。

「何より、メーカーが3分の1ルールを改め、できることならば、賞味期限表示をやめて欲しい。製造年月日だけで十分。若い人には、食農教育を十分にする態勢を、国や自治体で実施して欲しい。要は、自分で判断できる人間をつくることです」

同じく平成28年7月20日の西日本新聞「お茶の間学」欄においても、食品ロス削減の記事があり、そこでも私は、「表示に頼りすぎるのではなく、自分の五感で食品の傷みを判断する能力を身に着けることも大切」と、教育の重要性を強調させていただきました。

飢餓感を持つシニア世代が問題かも・・・！ 若者は残さない？！

その記事を書かれたのは、同協会の委員で西日本新聞記者の藤崎真二さんですが、最後に、「まずは買い過ぎない、作りすぎない」とまとめておられます。それを読み返して気づいたのですが、私たち団塊の世代や高齢者は、食べ物の少ない時代を生きてきて、高度経済成長により、急に手軽に安く何でも買えるようになったので、つい買い過ぎる傾向があります。

毎日毎日、まだあるのに買い物をして、冷蔵庫はギッシリです。今更ながら、これが一番問題かもと思に至りました。自己反省（；ー_ー）

最後に、衝撃の事実ですが、当協会の理事長である依田先生が大学で、1週間にどんな食べ物を捨てたかというアンケートを学生にしたところ、若者が捨てた食べ物はあまりなく、添付の小袋に入った醤油や出汁がほとんどであった、との結果を得たそうです。

私は、それを聞いて、若者は既製品ばかりを食べて、それほどに料理をしていないのだと、ますます食農教育の必要性を感じた次第です。

報告者 森本 美鈴

その2 「ふくおか生きもの調査分科会」

平成28年5月12日（木）第1回会議

1 平成28年度県民参加型生きもの調査「ふくおか生きもの見つけ隊」事業について

(1) 調査の目的

身近でわかりやすい動植物の生息状況を調査することにより、子供を中心とした参加者が生物や自然に対して関心を持ち、生物多様性について理解する契機とするとともに、その結果を外来種対策など生物多様性保全の基礎的な資料とするもの。

- ・平成26年度のテーマは、身近な生きもの15種を見つける＝初級編
- ・平成27年度のテーマは、里山の生きもの20種を識別する＝中級編
- ・平成28年度のテーマは、水辺・草地の生きもの約22種を識別する



(2) 調査時期

- ・初級編・中級編（里山）：平成28年4月～12月（平成27年度の調査を継続）
- ・平成28年度調査（水辺・草地）：平成28年7月～12月（終了時期は報告書集計時点のH28.12.31）

(3) 平成28年度調査対象種

- ・水辺・草地の生きものは22種を対象とする。
- ・近縁の仲間を識別するのが目的で、多様性の認知＋生息環境の違いに気づく→生きものや自然に対する興味・関心を高める

2 平成28年度県民参加型生きもの調査「ふくおか生きもの見つけ隊」事業の広報について

(1) 広報依頼 県の広報媒体の活用・市町村広報誌への掲載依頼

(2) 募集チラシ（案）・配布先について

3 平成28年度県民参加型生きもの調査「調査用ガイド（水辺・草地）」について
調査用ガイドについて、中級編とするか上級編とするか判断を求められたが、里山の生きもの調査と同程度の難易度であるため、「中級編」とすることで一致した。

4 その他

○事務局より、本年度が3か年計画の最終年であり、次年度の予算化が難しい状況であるが、県予算によらない事業の継続について助言が欲しいとのこと

⇒調査用ガイドの有料販売などの意見も出たが、現実的に厳しく、調査結果を基に所管課への本事業の有用性をアピールすることで落ち着いた。

調査用生きものガイド



初級編

中級編

中級編

(里山)

(水辺・草地)

平成29年1月17日（木）第2回会議

1 平成28年度ふくおか生きもの見つけ隊調査結果について

(1) 隊員（参加者）数：2,997人（前年度：1,304人）

隊員募集チラシの配布対象を低学年にまで広げたことが参加者の増加に繋がった。

(2) 報告件数：3,200件（前年度：4,200件）

報告件数の減少の要因としては、9月から12月中旬まで「いきものログ」が使用不能であったことが考えられる。そのような中、今年度から導入した「専用はがき」による報告では、これまで200件程度であった紙媒体での報告が2,000件を超えるなど有効であった。

(3) その他の評価

- ・福岡県では、全国に先駆けて環境省の生きものログを活用した調査を実施し、システムの改善に貢献できた。
- ・本県が生きものログを活用したことにより、同様に生きものログで団体調査を行う県内の自然活動団体が増え、生きものログの普及に貢献できた。
- ・調査用生きものガイドという将来にわたって活用可能な優れた生物多様性啓発資料が作成できた。
- ・生きもの見つけ隊で報告のあった外来種3種（オオキンケイギク、ウシガエル、ミシシippiacamigame）の分布状況については、「福岡県侵略的外来種リスト2017」策定の参考資料として活用することができた。

2 「ふくおか生きもの見つけ隊」2016年度結果報告書（案）について

3 「ふくおか生きもの見つけ隊」事業の総括及び評価について

「調査目的：身近でわかりやすい動植物の生息状況を調査することにより、子供たちなどが生物や自然に対して関心を持ち、生物多様性について理解する契機とするとともに、その結果を外来種対策など生物多様性保全の基礎的な資料とするもの。」という本来の目的は達成できた。

4 今後の事業の方向性について

当初の予定どおり3か年計画であるため、事業としては終了するが、30年度以降の事業計画として提案できるように折衝するつもりである。

【分科会長任期を全うしての感想】

1990年の「身近な生きもの調査」（環境庁：当時）の参加経験を活かし、各委員の意見や提案のとりまとめをいたしました。手前味噌ではあるが、県版の「生きもの調査ガイド」の作成をはじめ調査の目

的を達成するために有効な具申ができたと思います。

今後も「実践者」としての立ち位置で環境政策に関わり、環境教育を通じて「次世代の育成」に取り組もうと決意を新たにしました。

報告者 近藤 哲司

活動報告

今年も大盛況の北九州エコライフステージ 2016

○テーマ：～発信！市民の誇り、環境首都北九州～身近なコトから考え、未来へつなげよう

○期 日：平成 28 年 10 月 8 日(土)、9 日(日)

○場 所：北九州市役所周辺広場

毎年 10 月に開催される北九州市民の環境フェスティバルである「北九州エコライフステージ」が行われ、当協会も出展し、エコライフ啓発活動をしました。

エコライフステージは、環境市民団体だけでなく、企業、学校、行政などあらゆる団体が集まり、日頃から実践しているさまざまな環境活動やエコライフを提案・発表する場です。

会場では、「3つの約束」①ごみゼロ（マイ食器、リターナブル食器の利用など）、②電気の使用を最大限抑えた会場運営、③フードロスの削減など）に取り組み、環境に配慮した会場運営を行います。

当協会では、「守ろう 地球、伝えよう 未来の子どもたちに」というテーマを掲げ、主に地球温暖化防止と、日頃のエコライフについて、クイズ形式で啓発する場としました。

雨も降ったのですが、子供連れの若いファミリーの入場が多いのに目を引かれました。何だかほっこり暖かくなる会場でした。

報告者 森本 美鈴



日頃の生活と地球温暖化のつながりを説明する環境カウンセラー

研修会等の活動

平成 28 年度九州ブロック

環境省主催 環境カウンセラー研修

環境省主催の「平成 28 年度環境カウンセラー研修（九州地域）」が、11 月に福岡市で行われました。九州各県から約 50 名の環境カウンセラーが集まり、今後の環境活動について学習と意見交換をしました。

午前中は、基調講演として、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの磐田治郎専務理事による演題「パリ協定後の地球温暖化対策と国民運動」があり、地球温暖化の世界日本の現状や取組、日本が間に合わなかった話、これからの国民運動「cool choice」等について、わかりやすく話がありました。

午後からは、①「地域における地球温暖化緩和策」、②「熊本地震による被害の実態と災害廃棄物処理の現状、課題、必要な対策」、③「ESD を意識して実施する環境カウンセリングの手法・事例」の 3 分科会に分かれて、事例発表や情報交換などが行われました。

第 3 分科会では、当協会から理事長依田浩敏先生の講演、意見交換では副理事長の森本美鈴環境カウンセラーがファシリテータとして、記録者に川島伸治環境カウンセラーでクルーを組み、グループ討議をし

ました。

ESD って、いったい何だ！何をしたら ESD になるのか？という疑問に意見を出し合い、自分はんばっているが、あとに続く人材がない、といった地域の現状や悩みに、参加者が解決方法を助言したり等、有意義な討議が行われました。

ESD とは、テーマを問うものではなく、持続可能な社会を創出する人材を育てる教育であり、それはたとえば多様な価値観を持ち本質を見抜く力、判断力や決断力といった問題解決能力を持つなど、自分自身で考え、自ら実践する力を育む「人づくり」であることを確認して終わりました。

報告者 森本 美鈴

表彰

おめでとうございます

平成 28 年度 福岡県環境保全功労者知事表彰 森本 美鈴 環境カウンセラー

【主な功績】

長年にわたり、地球温暖化防止活動推進員アドバイザー、環境マイスター、3R の達人、環境教育インストラクターとして、環境教育や環境人材育成に従事してきた。また、福岡県環境教育学会、特定非営利活動法人ふくおか環境カウンセラー協会の設立・運営に関わり、その活動を広げている。

事務局だより

社会が大きく変容する中、国のリーダーが変わっても、国際的な課題である環境問題に対しては継続して取り組んでいって欲しい、Act Locally の重要性を再認識するこの頃です。

協会では、遅ればせながら、今年度から原則月 1 回の定例会を開くことになりました。会員の情報交換をより緊密に行っていくとともに、会員外の皆様にも、協会の活動を広く知っていただくようにしたいと思います。

また、当協会の監事である大平裕氏が、4 月から福島県浜通りの環境省福島環境再生事務所に赴任することになりました。

福島県原発の様子などを発信していただき、会報にも掲載したいと思います。

理事長 依田 浩敏

編集担当 森本 美鈴

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。

年会費 3,000 円 振込先：郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号：13271061 名前：ふくおか環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募集

準会員：会費（1口2千円） 賛助会員：会費（1口1万円） 学会会員：会費なし

発行責任者： 依田 浩敏 （編集責任者： 森本美鈴）

連絡先：〒813-0017 福岡県福岡市東区香椎照葉2-3-36

TEL/FAX:092-672-9911 メールアドレス：fecca.office@gmail.com